

平成29年度 第1回  
広島市公共事業再評価審議会

街路事業

- ・都市計画道路 比治山東雲線
- ・都市計画道路 霞庚午線(8・9工区)
- ・都市計画道路 東雲大州線外1
- ・都市計画道路 山の手線外1

平成29年11月17日(金)

広島市道路交通局道路部街路課

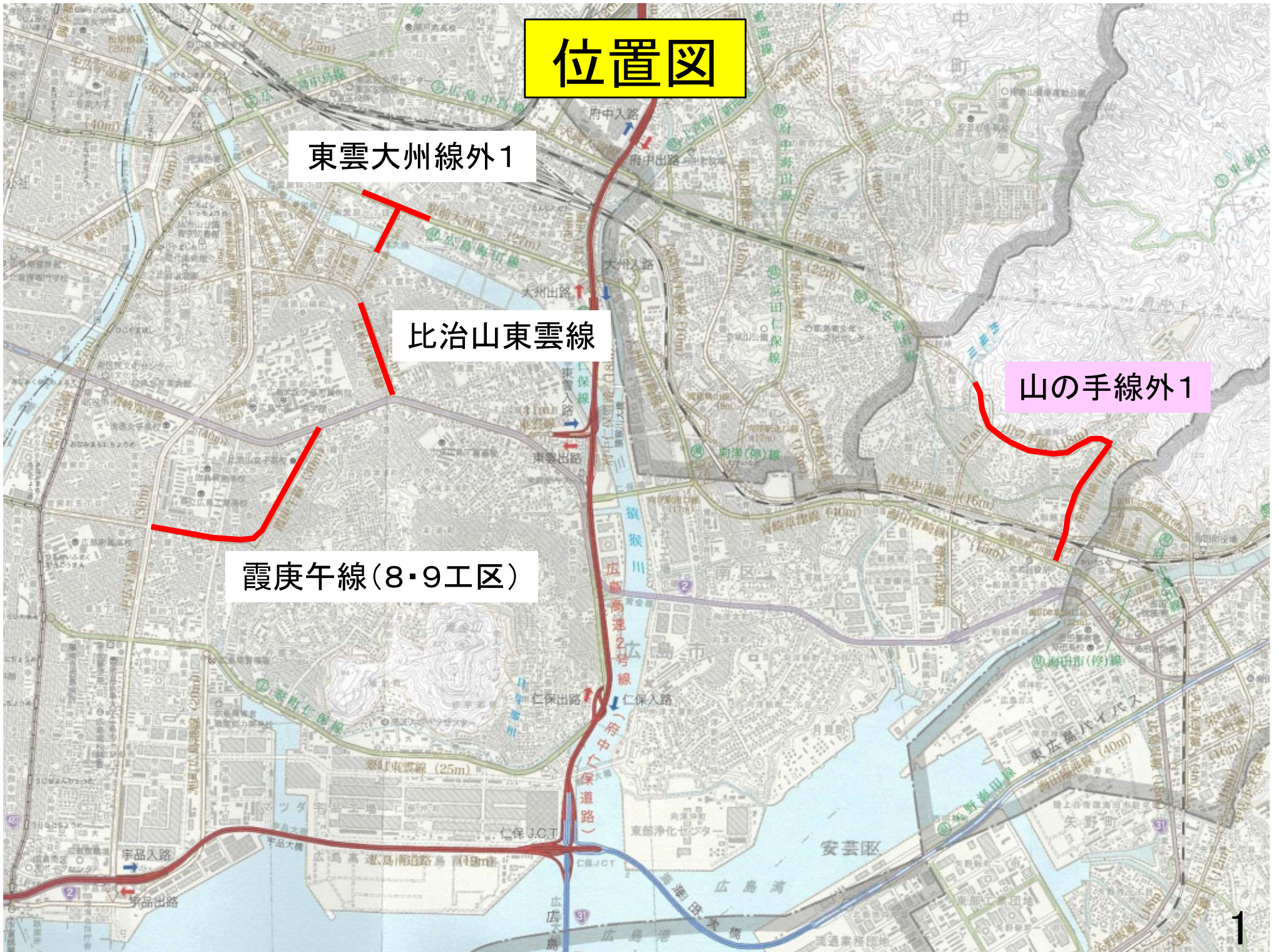
# 位置図

東雲大州線外1

比治山東雲線

山の手線外1

霞庚午線(8・9工区)



# 事業概要

府中町

広島市安芸区

山の手線

L=1.0km,W=18m

海田町

花都川線(2工区)

L=0.3km,W=16m

花都川線(1工区)

L=0.4km,W=16m

船越小学校

区民文化センター

安芸区役所

海田市駅

国道2号

海田市(停)線

延 長	L=1,720m
幅 員	W=16~22m(2車線)
予定期間	H5~H30年代後半
全体事業費	100億円

**山の手線**

**L=1,050m,W=18m**

**花都川線(2工区)**

**L=320m,W=16m**

**花都川線(1工区)**

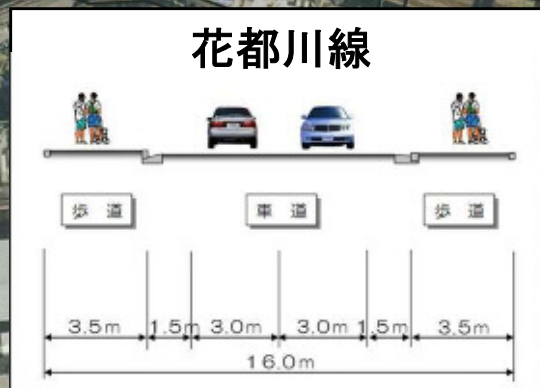
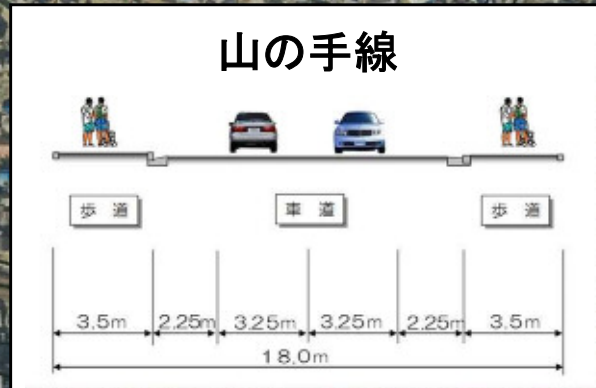
**L=350m,W=16m**

船越小学校

区民文化センター

安芸区役所

海田市駅



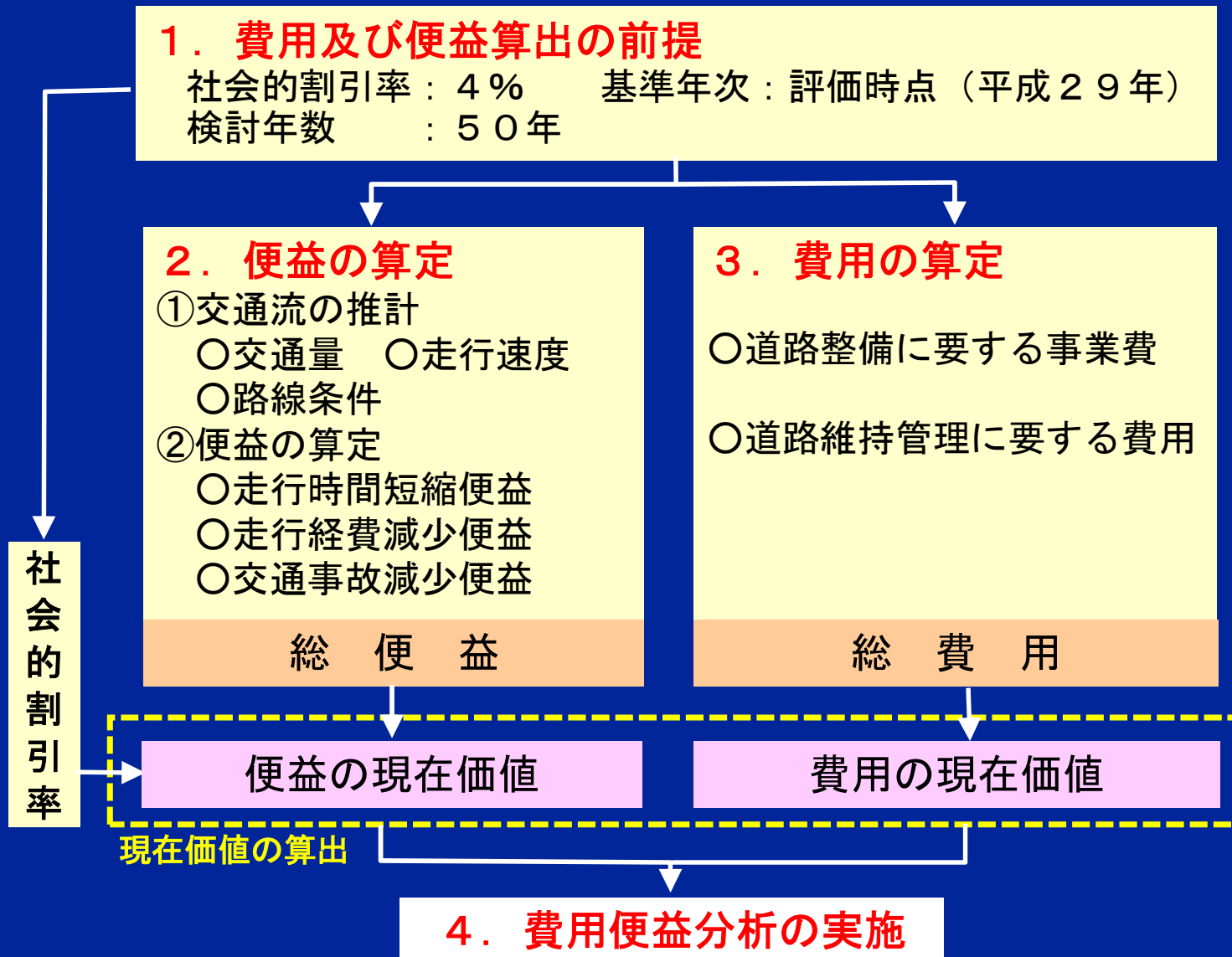
# 視点① 事業を巡る社会情勢等の変化

- 主要渋滞箇所である国道31号大正交差点で依然として渋滞が発生。
- 安芸土地区画整理事業は現時点においては未着工。



# 視点② 事業の投資効果

## ■費用対効果分析のフロー



## 視点② 事業の投資効果

### ■費用対効果分析の結果

#### 【費用便益比(事業全体)】

$$\begin{array}{ccc} \text{総便益(B)} & \div & \text{総費用(C)} \\ 240.0\text{億円} & & 127.5\text{億円} \\ & = & \\ & & \text{費用便益比(B/C)} \\ & & 1.9 \end{array}$$

#### 【費用便益比(残事業)】

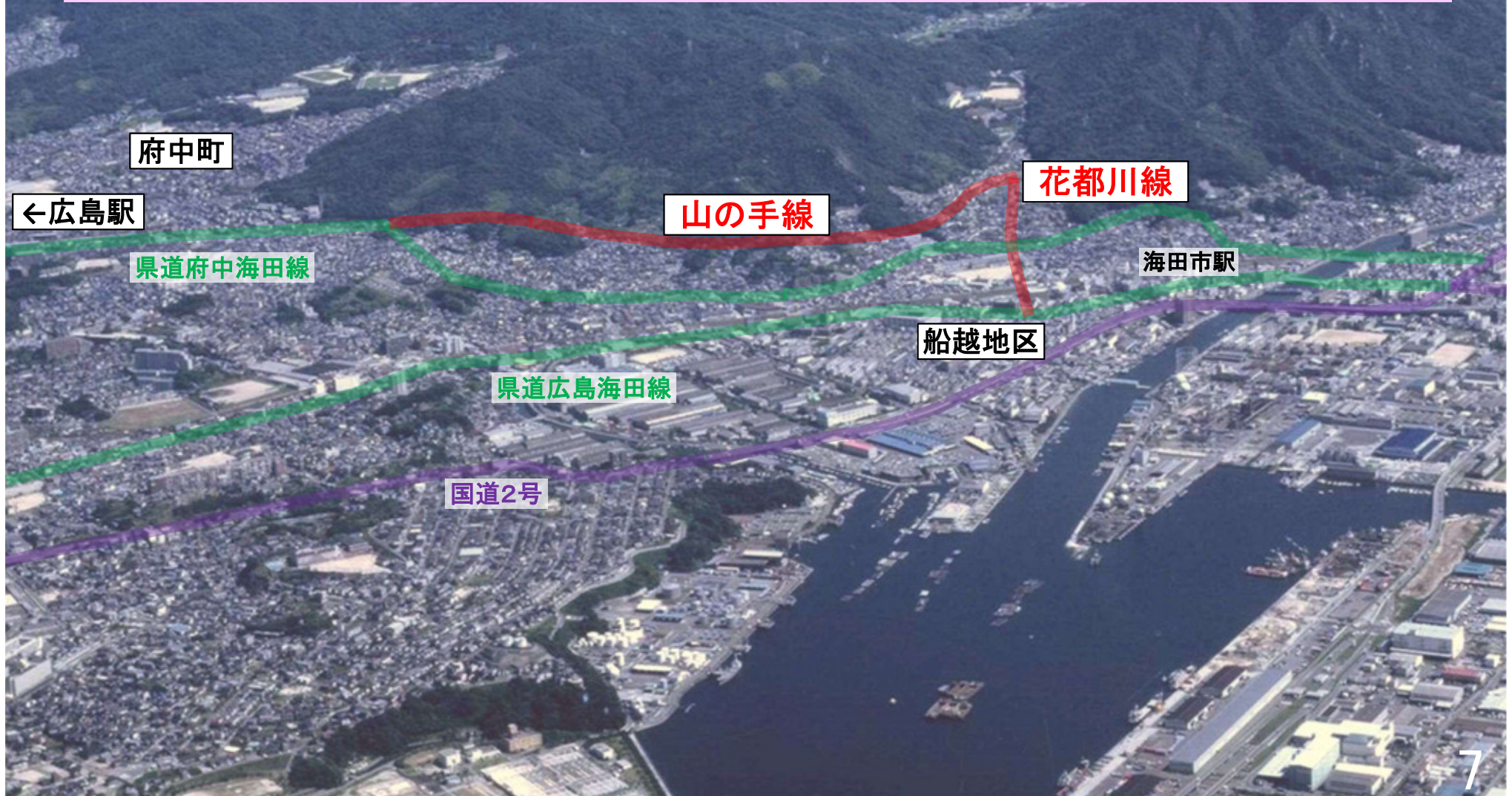
$$\begin{array}{ccc} \text{総便益(B)} & \div & \text{総費用(C)} \\ 240.0\text{億円} & & 40.1\text{億円} \\ & = & \\ & & \text{費用便益比(B/C)} \\ & & 6.0 \end{array}$$

総便益(B)が総費用(C)を上回っている

## 視点② 事業の投資効果

■事業の効果や必要性 【国土・地域ネットワークの構築】

県道府中海田線及び県道広島海田線を補完し、拠点地区である船越地区と府中町及び広島駅周辺地区の連絡強化



## 視点② 事業の投資効果

### ■事業の効果や必要性

#### 【国土・地域ネットワークの構築】

大型車のすれ違い困難区域が解消



## 視点② 事業の投資効果

### ■事業の効果や必要性

【歩行者・自転車のための生活空間の形成】

歩行者や自転車の安全性が向上

花都川2工区(未整備)



花都川1工区(整備済)



# 視点② 事業の投資効果

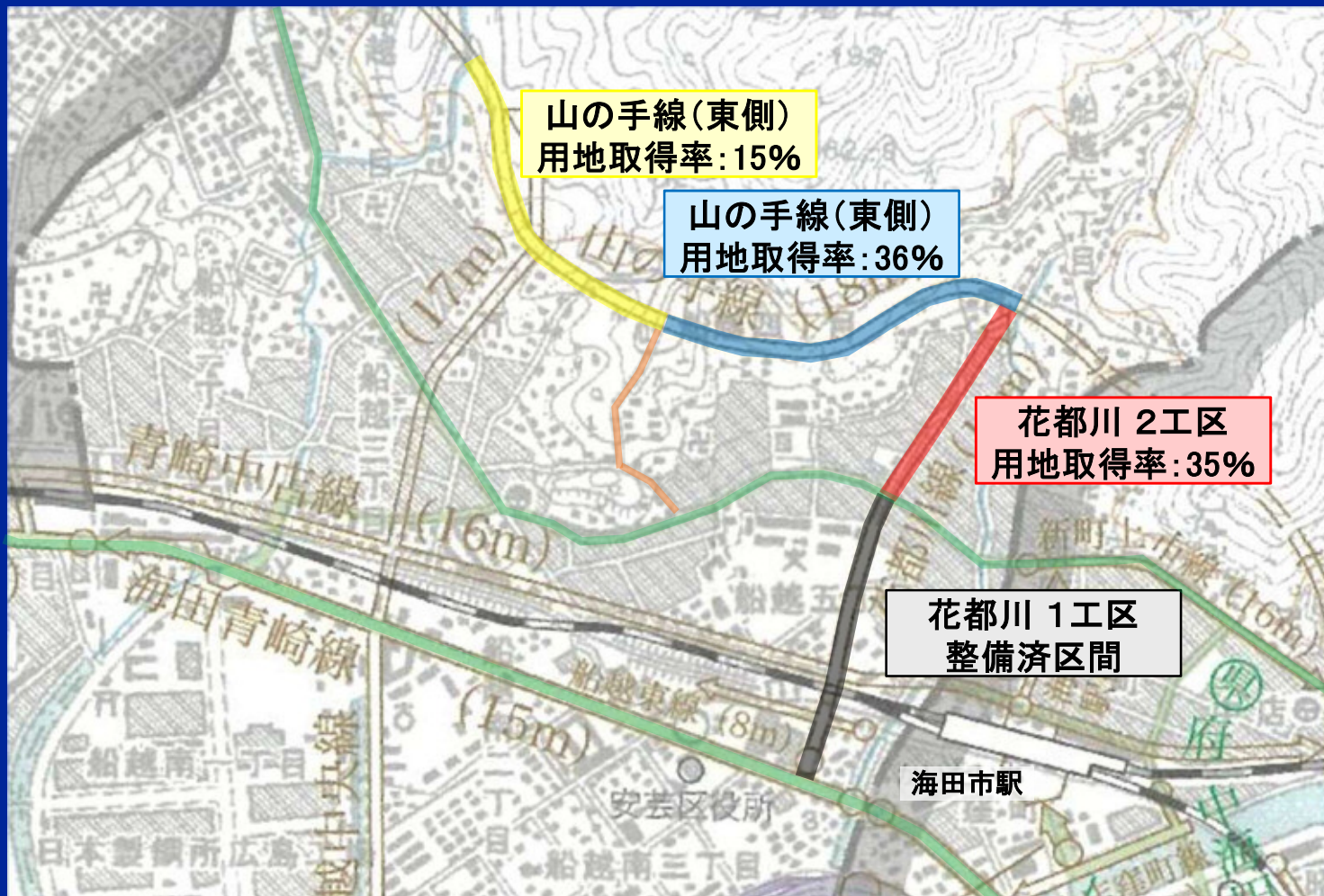
## ■事業の効果や必要性

【災害への備え】 消防活動困難区域が大幅に解消



## 視点③ 事業の進捗状況

- ・用地取得率は約4割、事業進捗率は約5割まで進捗。
- ・花都川1工区は、平成16年度に整備完了。



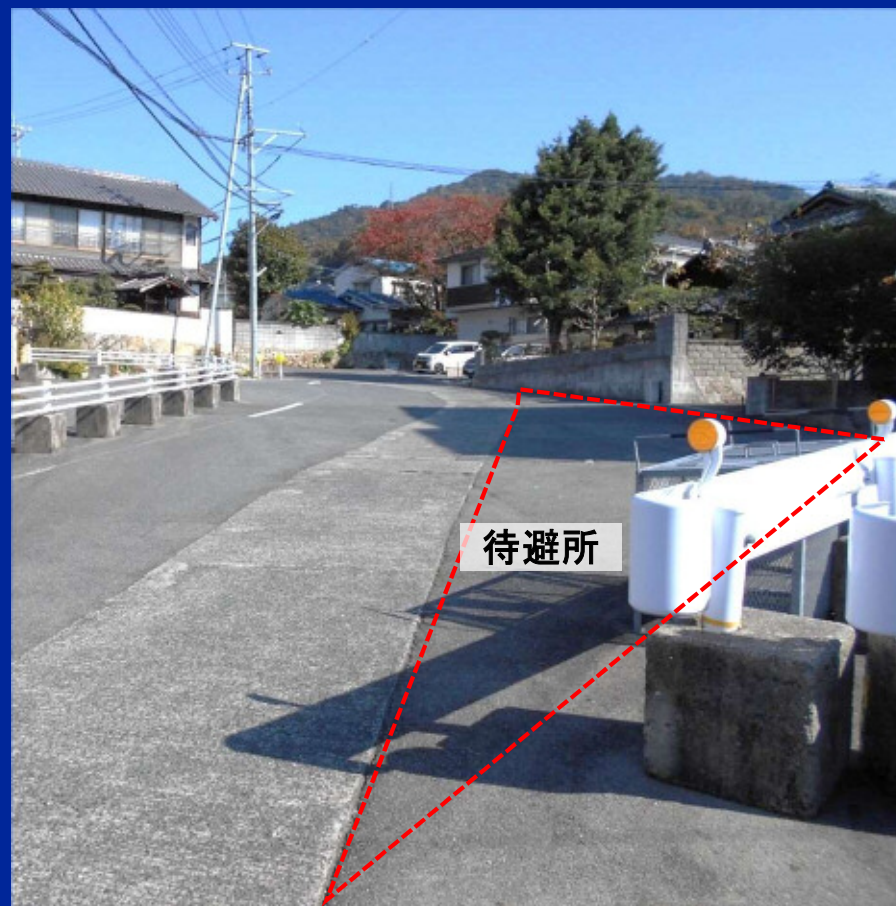
# 視点③ 事業の進捗状況

## ■ 花都川1工区(整備状況)



## 視点④ 事業の進捗の見込み

約4割の用地取得を終えており、部分的な道路改良を行うなど整備効果の早期発現を図りながら整備を推進する



# 視点⑤ コスト縮減や代替案立案等の可能性

## ■コスト縮減の可能性

### 【道路改良工事】

建設副産物の発生抑制や新技術の採用等

### 【電線共同溝工事】

浅層埋設方式の採用や道路改良工事との同時施行

## ■代替案立案等の可能性

- 最適なルートとして都市計画決定。
- 花都川線1工区は平成16年度に整備完了。
- 現在、約4割の用地を取得済み。



現行ルートが適当

# 対応方針（案）

## 【対応方針】 事業継続

### 【理由と今後の方針】

山の手線及び花都川線は、府中町と安芸区船越地区を連絡し、県道府中海田線及び県道広島海田線を補完する幹線道路である。このうち本市域内については、安芸区船越地区の骨格となる道路網を形成する。

本路線は、消防活動困難区域を大幅に解消するとともに、狭隘道路が多い船越地区の安全性・快適性の向上を図るなど整備効果が高い路線である。事業進捗は約5割となっており、引き続き事業を継続し、早期完成を目指す。